

高岡市民病院の概況

2024.12.25 市民病院総務課

高岡市民病院の概要

項目	内容	種別	病床数	機能区分※1
経営形態	地方公営企業法	病床数 合計	365	
施設規模	建築面積	急性期	249※2	急性期
	延床面積	地域包括ケア	36	回復期
改築状況	平成11年4月 新病院病棟・中央診療棟完成 同年6月 全入院患者新病棟に移転 (新病院供用開始)	緩和ケア	20	回復期
		精神	42	—
	平成12年5月 新病院で外来診療開始	結核	12	—
	平成13年3月 外来駐車場・外構工事完工 (供用開始)	感染症	6	—

※1 高岡地域医療構想調整会議 病床機能報告における病床区分の目安(県)による ※2 急性期うちHCU21床

- 平成11年度の完成から約25年経過。施設の修繕や更新が必要な時期を迎えている。
- 医療ニーズを踏まえ、病床数などの見直しを行っている。
【病床数】改築後最大476床→現行365床
- 急性期医療を中心とした病床体制（H28：緩和ケア病棟に20床転換、R6：地域包括ケア病棟に36床転換）

診療科及び常勤医師数

診療科目 計24診療科

内科、循環器科、リウマチ科、精神神経科、脳神経内科、消化器内科、感染症内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、胸部・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科・核医学科、歯科口腔外科、麻酔科・集中治療科、病理診断科、緩和ケア内科

- 常勤医不在に伴い外来主体となっている診療科
 - ・胸部血管外科 (R1)3人⇒(R5)0人
 - ・脳神経外科 (R1)2人⇒(R4)0人
- 一部診療を休止している診療科
 - ・産婦人科（分娩休止）(R1)5人⇒(R6)2人

●R6アイセンター開設

各年度当初 常勤医師数 正規＋フルタイム会計年度職員

診療科	R1	R2	R3	R4	R5	R6
内 科※1	8	7	9	9	10	10
脳神経内科	1	1	1	1	1	1
消化器内科	5	5	5	5	5	5
精神神経科	3	3	4	4	4	4
小児科	3	2	2	2	2	2
外 科	7	8	8	7	8	7
胸部血管外科	3	2	2	1	0	0
整形外科	5	5	5	5	6	6
脳神経外科	2	2	1	0	0	0
皮膚科	1	1	1	1	1	1
形成外科	1	1	1	1	1	1
泌尿器科	2	2	3	2	2	3
産婦人科	5	5	5	5	5	2
眼 科	3	3	3	3	3	4
耳鼻咽喉科	1	1	1	1	1	1
放射線科※2	3	4	4	4	4	4
歯科口腔外科	2	2	2	2	2	2
麻酔科※3	4	4	4	4	4	4
緩和ケア内科	—	—	—	1	1	2
病理診断科	2	2	2	2	2	2
検査部	0	0	1	0	0	1
計	61	60	64	60	62	62

※1循環器科・リウマチ科含む。 ※2核医学科含む。 ※3集中治療科含む
感染症内科: 非常勤のみのため記載なし リハビリテーション科: 兼務のため記載なし

主な医療機器の状況

(千円)税抜き

医療機器	取得額	購入年度
病院情報システム及び関連端末	969,213	R4-5
放射線治療装置システム(リニアック)	498,000	H30
内視鏡ロボットシステム(ダヴィンチ)	277,500	R1
頭腹部血管撮影装置(アンギオ装置)	144,850	H21
MRI(磁気共鳴画像診断装置)	140,000	R4

医療機器	取得額	購入年度
CT(コンピュータ断層診断装置)	118,000	R2
CT(コンピュータ断層診断装置)	92,952	H23
FPDシステム(X線撮影装置)	81,800	R2

- 急性期医療に必須なもの、保守期間終了により修理不可なものを優先して購入している。
- 導入後も維持管理や保守に毎年一定程度の費用が必要。

自治体病院として
高岡市民病院が担っている医療機能

救急医療

高岡医療圏（高岡市・氷見市・射水市）の病院群輪番制による二次救急指定病院（救急患者の受入体制の確保）
※精神科の救急当番にも参加

○高岡市民病院の救急担当

- ・ 二次救急輪番
- ・ 精神科救急当番
- ・ 産婦人科救急当番（休日）

○高岡医療圏の救急体制

- (1) 一次救急【初期救急】
高岡市急患医療センター（内科・小児科・外科）
休日在宅当番医（耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科・産婦人科）
※呉西地域の開業医の当番制
- (2) 二次救急【公的病院による輪番制】
厚生連高岡病院、高岡市民病院、済生会高岡病院、
JCHO高岡ふしき病院、射水市民病院、金沢医科大学氷見市民病院
- (3) 三次救急【救命救急センター】
厚生連高岡病院

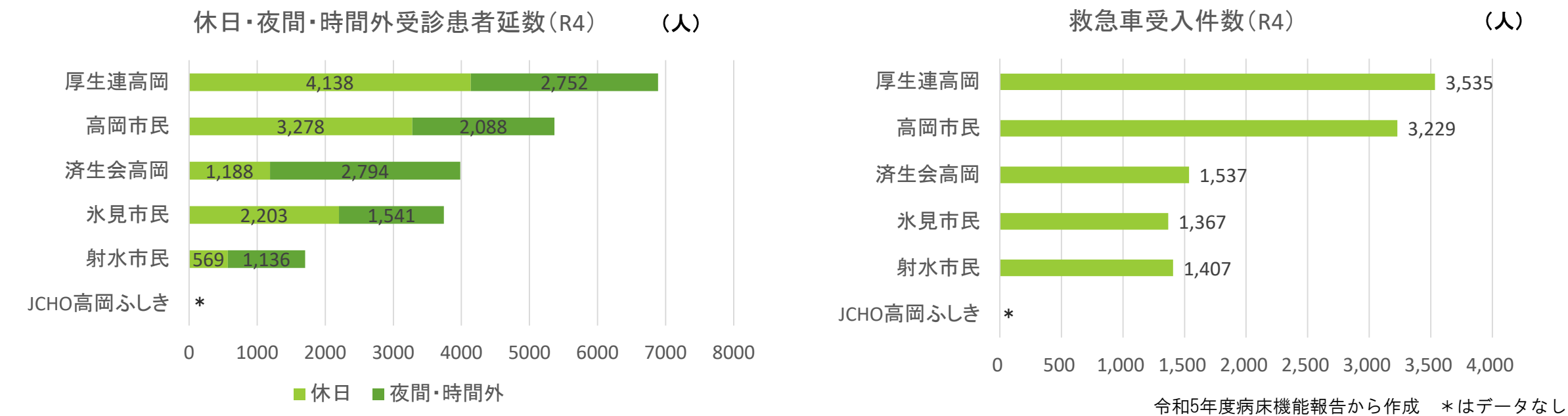
○二次救急輪番 当番日数（令和6年度） (人)

医療機関	当番日数	うち休日・土曜	うち平日	備考
厚生連高岡	162日	54日	108日	
高岡市民	121日	48日	73日	
済生会高岡	82日	20日	62日	
JCHO高岡ふしき	24日	—	24日	厚生連 高岡と 2病院体制
氷見市民	54日	54日	—	
射水市民	24日	—	24日	

●公的病院による輪番制の二次救急の当番は、2番目に多い日数（約120日）を担っており、休日・土曜の当番日数も多い。
二次救急輪番には小児科も含むほか、精神、休日の産婦人科の救急当番も担当。
⇒ 救急医療を担うには、宿日直体制を構築する必要がある、その当番日数に応じた医師、看護師、コメディカルの確保が必要
⇒ 救急医療体制については、高岡医療圏としての視点からの検討が必要

○救急患者数（市民病院）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院	2,445	2,263	2,621	2,567	2,295
外来	4,547	4,495	5,211	7,524	4,423
計	6,992	6,758	7,832	10,091	6,718
入院割合	33.97%	33.49%	32.47%	25.44%	34.16%



- 高岡市民病院の救急の入院患者数は、概ね2,300～2,600人で推移
- 令和3～4年度の救急患者数は、特に発熱外来での受診が多い。（新型コロナウイルス感染症対応の患者数を発熱外来に含む）
- 高岡市民病院は、休日夜間時間外受診、救急車受け入れともに、厚生連高岡病院に次ぐ2番目の件数を受け入れている。

感染症医療

市内唯一の第2種感染症指定医療機関で感染症病床6床と結核病床12床を有する。近年の新型コロナウイルス感染症への対応において、専用病棟の確保と積極的な入院患者の受入れ、発熱外来の設置やワクチン接種、他の接種会場への医療従事者派遣など、高岡医療圏において中心的な役割を果たした。

また、県と医療措置協定（第1種協定指定医療機関）を締結しており、新型インフルエンザ等感染症等発生時に病床の確保、発熱外来、個人防護具の備蓄等の措置を講ずることとしている。

○確保病床等

種別	病床数	備考
感染症	6床 (常時)	陰圧室 専用出入口から直結
結核	12床 (常時)	陰圧室
新興感染症発生時の確保病床	最大36床 (上記を除く)	他病棟と隔離可能

○新型コロナウイルス感染症患者受入数 (人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入院（実入院患者数）	138	374	495	70
発熱外来	2,504	5,799	4,694	2,499
計	2,642	6,173	5,189	2,569

- 新型コロナウイルス感染症患者の対応では、医療圏で最多の専用病床を確保して多くの入院患者を受け入れた。
- 入院・外来ともに感染拡大の状況次第で患者数の増減が大きい。

精神医療

県西部における精神科医療の基幹病院として、また、精神科救急輪番制度における当番病院として、身体合併症を伴う患者さんや緊急の精神科医療を要する患者さんの入院受入を行っている。

医療圏の公的病院で唯一精神病棟を有するほか、市内で措置入院の受入が可能な2病院の内のひとつ。

直近では個室を要する患者の増加に対応していくため、多床室の個室化を進めるほか、退院後の訪問看護にも取り組んでいる。

○入院外来患者数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
延入院患者数	10,229	10,781	11,037	8,764	9,457
延外来患者数	15,351	14,335	14,897	14,860	15,196

- 延外来患者は、コロナ禍には減少したが、徐々に増加傾向
- 個室対応が必要な入院患者に対応するため、令和6年度に多床室を個室へ転換（個室：10室→18室）

○病床数

	病床数	うち個室	うち4人床室
改修前	50	10	40
R6改修後	42	18	24

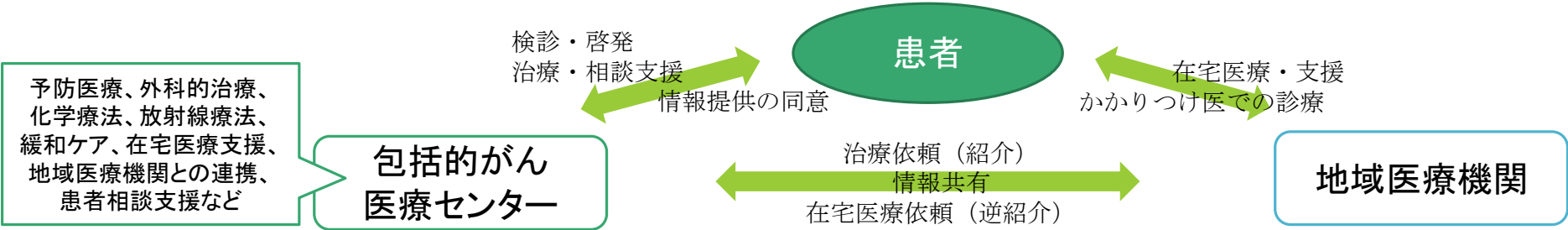
※個室のうち保護室2床

富山県がん診療地域連携拠点病院

がん診療体制を充実強化し、安心かつ適切な医療を提供することを目的としたもので、当院は令和3年度に指定を受けた。放射線治療をはじめ、外来化学療法や緩和ケアなどのがん診療体制の整備に取組み、高度ながん診療を提供している。

○包括的がん医療センター

がん診療は手術や化学療法、放射線治療といった治療部門以外に、検診、緩和医療、在宅医療など多くの分野に及ぶため各分野との連携が重要であり、がん診療に関する病院内の各部門の情報を包括するとともに地域医療機関との連携強化を目的に設置。



○がん相談員の相談件数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(件)
相談件数	33	19	40	40	25	

高齢化、人口減少へのかかわり

産後ケア事業

心身ともに不安定になりやすい産後の母親の疲労回復の促進やメンタルヘルスの向上を図るため、助産師による母子ケアを提供している。育児相談など育児サポートや、お母さんや赤ちゃんのケアを行う。特にショートステイは令和5年度、高岡市内の全件を当院が受け入れている。

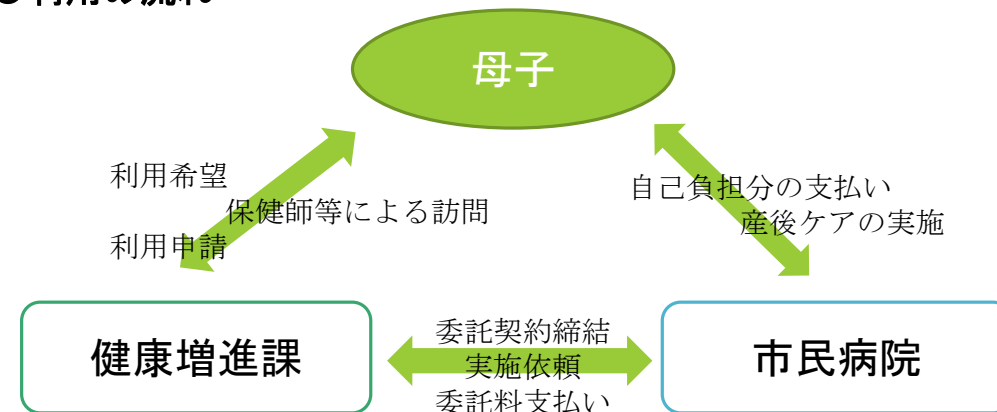
※市民病院では、デイケアと訪問ケアは令和2年度、ショートステイは令和4年度から開始。令和6年度から射水市、氷見市からも受け入れ。

○実績

(件)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ショートステイ(宿泊)	—	—	11	25
デイケア(日帰り)	0	3	5	19
訪問ケア	1	0	2	0
計	1	3	18	44

○利用の流れ



- 産婦人科の常勤医の減少〔(R1)5人⇒(R6)2人〕に伴い分娩休止（R5年度末）⇒ウィメンズ病棟(22床休床)を産後ケアに活用
- ショートステイの受け入れ機関は少なく、令和4年度の受入開始以降、利用者は増加傾向
- 母子保健法の改正により、令和3年度から「産後ケア事業」の実施が市区町村の努力義務（自治体として推進する事業）となっている
- 産後ケアと精神神経科との連携も可能。

訪問看護事業

高齢化の進行に伴い、訪問看護を要する患者が増えていくことが想定される。
当院を退院した患者や当院通院中で主治医の指示がある患者を対象に、看護師が自宅を訪問し看護サービスを提供する。症状観察、日常生活上の看護、一部医療処置やリハビリ等を行う。令和6年3月からは介護保険分野も対象に拡充した。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(件)
医療保険	39	74	292	942	1,375	
介護保険	—	—	—	—	12	
計	39	74	292	942	1,387	

●当院の訪問看護は、当院の退院後の支援を主体としている。（24時間対応の訪問看護ステーション化はしていない。）

認知症疾患医療センター

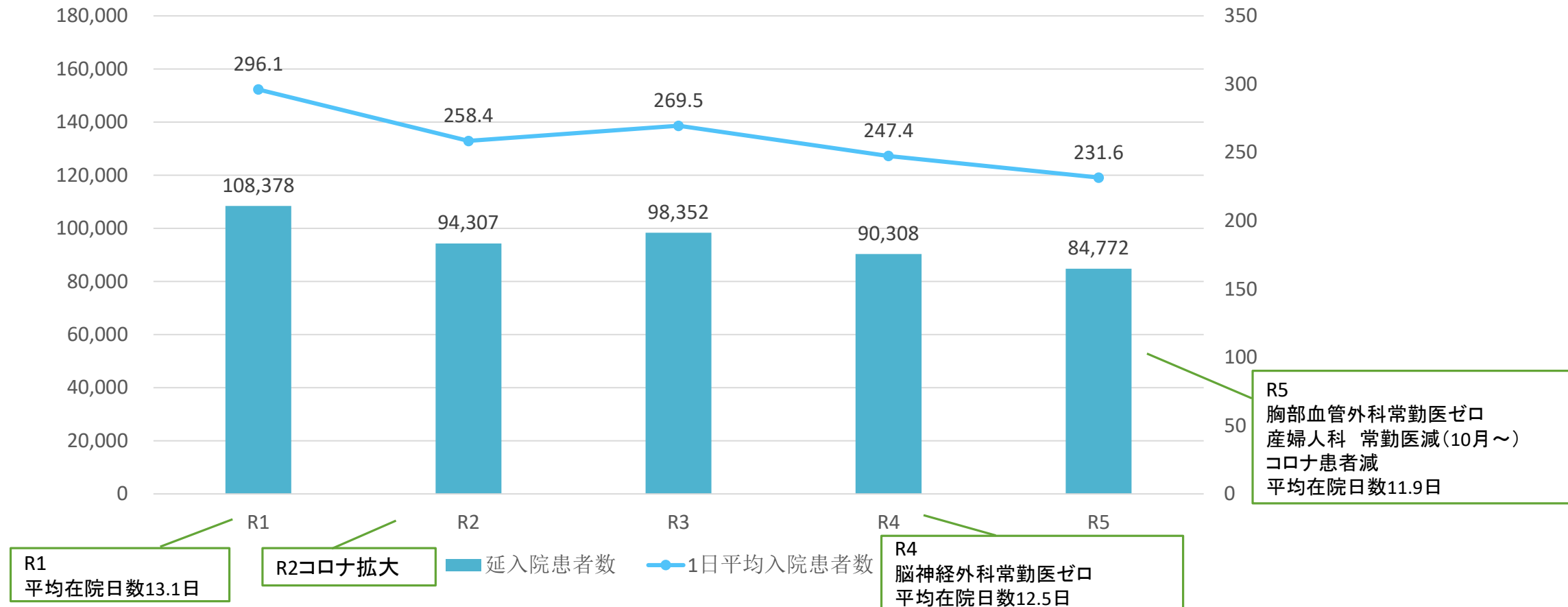
県内各医療圏に各1施設ずつ設置されており、高岡医療圏では当院に設置。認知症の方への支援を目的に、主な事業内容は専門の職員による認知症相談や情報発信などを実施している。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	(件)
相談件数	214	184	203	207	234	

高岡市民病院の 患者数と収支の推移

入院患者数推移

入院患者数の推移(人)



●延入院患者数【R1】108,378人－【R5】84,772人＝23,606人（△22%減）

●入院患者の減少要因として考えられる事項

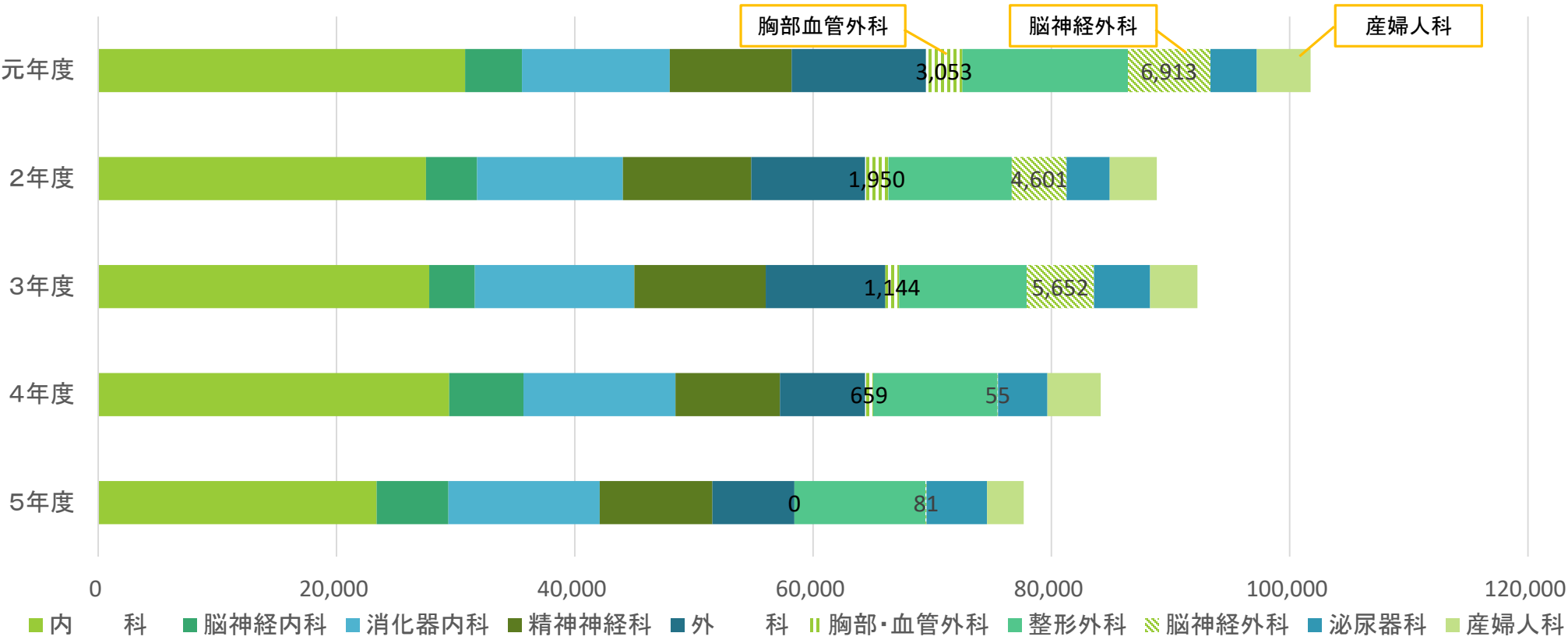
- ・ コロナ禍における患者の受療行動の変化
- ・ 平均在院日数の短縮（医療の効率的な提供の推進）
- ・ 脳神経外科、胸部血管外科の常勤医が不在

⇒延入院患者の減少により、収益が減少

診療科別患者数推移（入院）

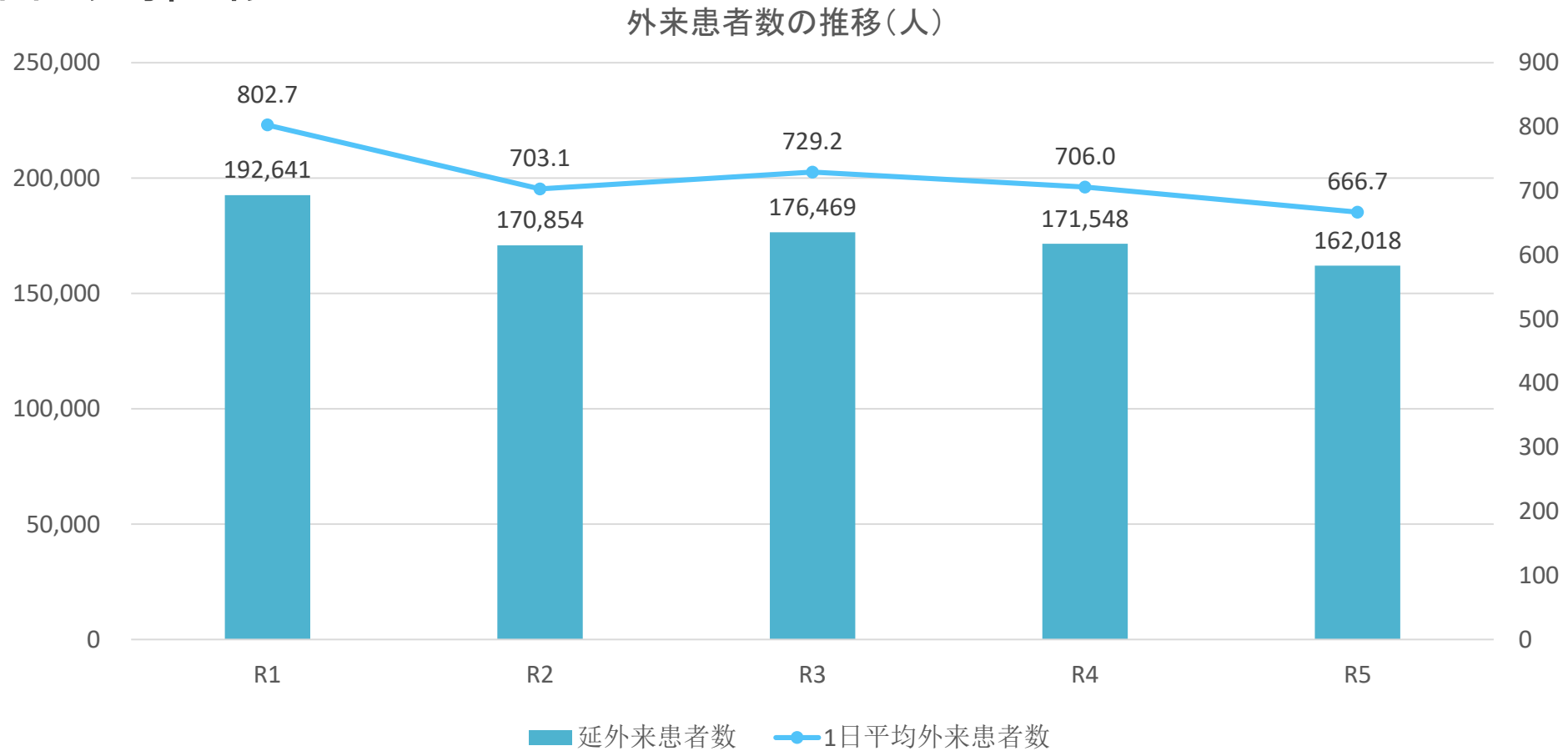
上位10診療科の延入院患者数 推移

(人)



●常勤医が不在となった脳神経外科、胸部・血管外科での患者数の減少が大きい。

外来患者数推移



● 外来患者数 【R1】 192,641人－【R5】 162,018人＝30,623人（△16%減）

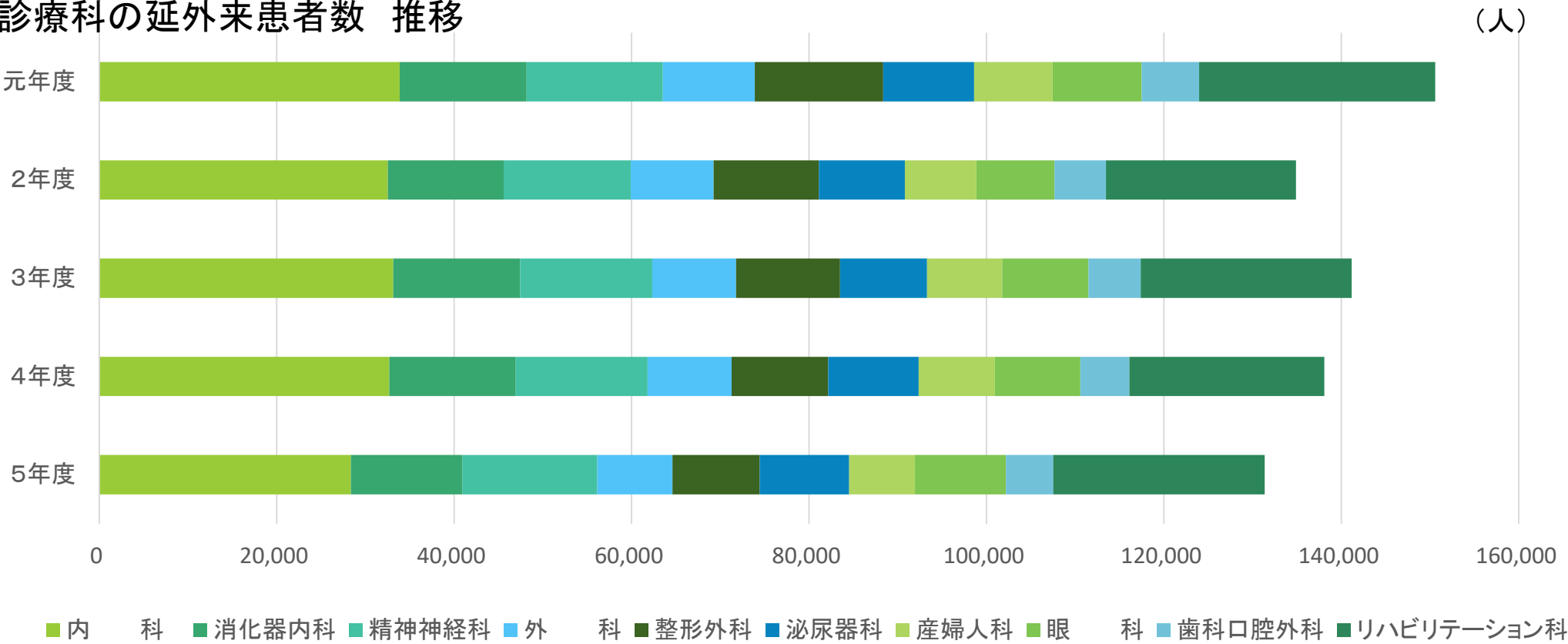
● 外来患者の減少として考えられる事項

- ・ コロナ禍における患者の受療行動の変化
- ・ 診療報酬改定によるR4.10月からの選定療養費の引き上げ
（紹介状を持たない初診患者 5,500円→7,700円）

⇒ 外来患者の減少により、収益が減少

診療科別患者数推移（外来）

上位10診療科の延外来患者数 推移



●現在常勤医がいない胸部血管外科と脳神経外科は非常勤医師により対応しているが、基本的には入院患者を受け入れることができない

紹介・逆紹介

国の方針では、患者はかかりつけ医（開業医）を受診したうえで、必要に応じて紹介状を持って当院のような専門的な医療等を行う医療機関を受診するとともに、状態が落ち着いたら地域のかかりつけ医に戻るといった外来機能の連携・役割分担を進めており、当院としても紹介・逆紹介の推進に取り組んでいる。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
紹介率	68.5%	70.6%	68.0%	70.4%	78.8%
逆紹介率	97.4%	90.4%	96.2%	98.6%	106.6%
延紹介患者数(人)	6,085	5,722	5,940	6,020	5,839
延逆紹介患者数(人)	8,646	7,330	8,404	8,426	7,901

紹介率＝紹介患者数/初診患者の総数（休日夜間や平日日中の救急搬送患者等を除く）

逆紹介率＝逆紹介患者数/初診患者の総数（休日夜間や平日日中の救急搬送患者等を除く）

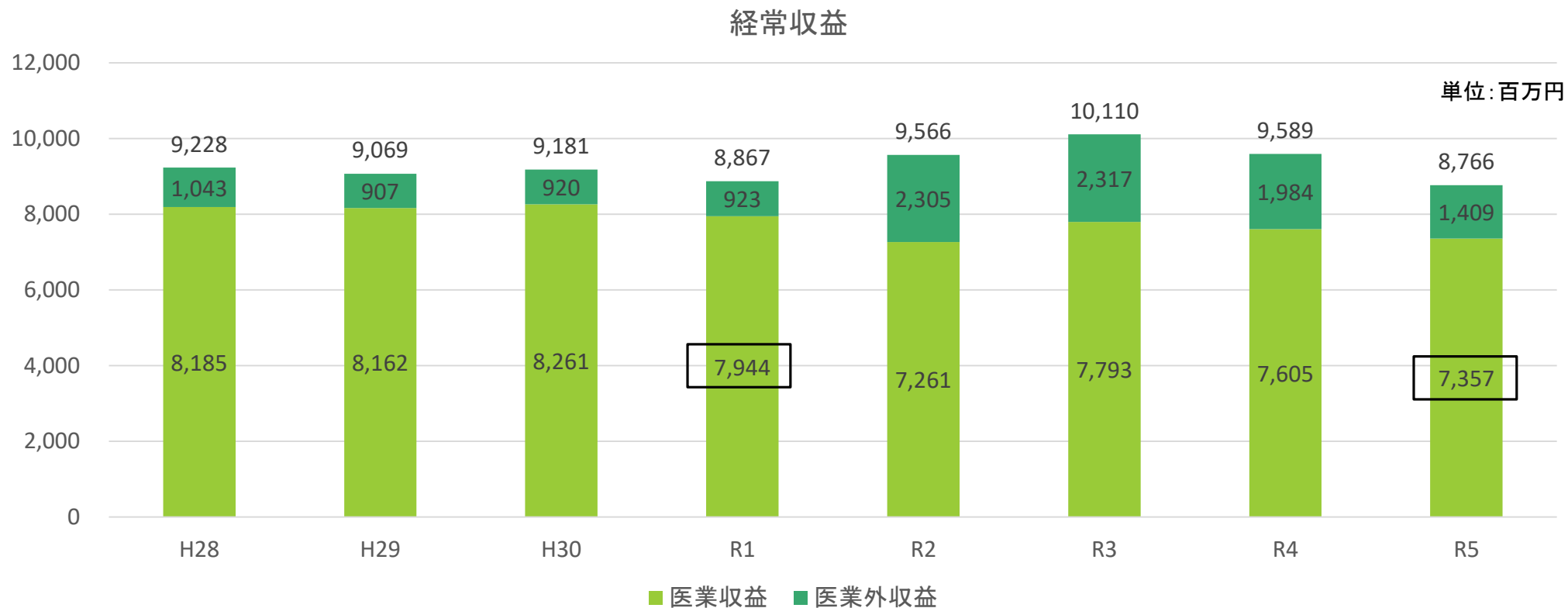
紹介率は、当院を受診された初診患者のうち、他の医療機関から紹介状を持参された方の割合。逆紹介率は、当院から他の医療機関へ紹介した割合。いずれも開業医との連携関係を表す。

●紹介率、逆紹介率ともに増加

⇒地域連携・役割分担が進展している。

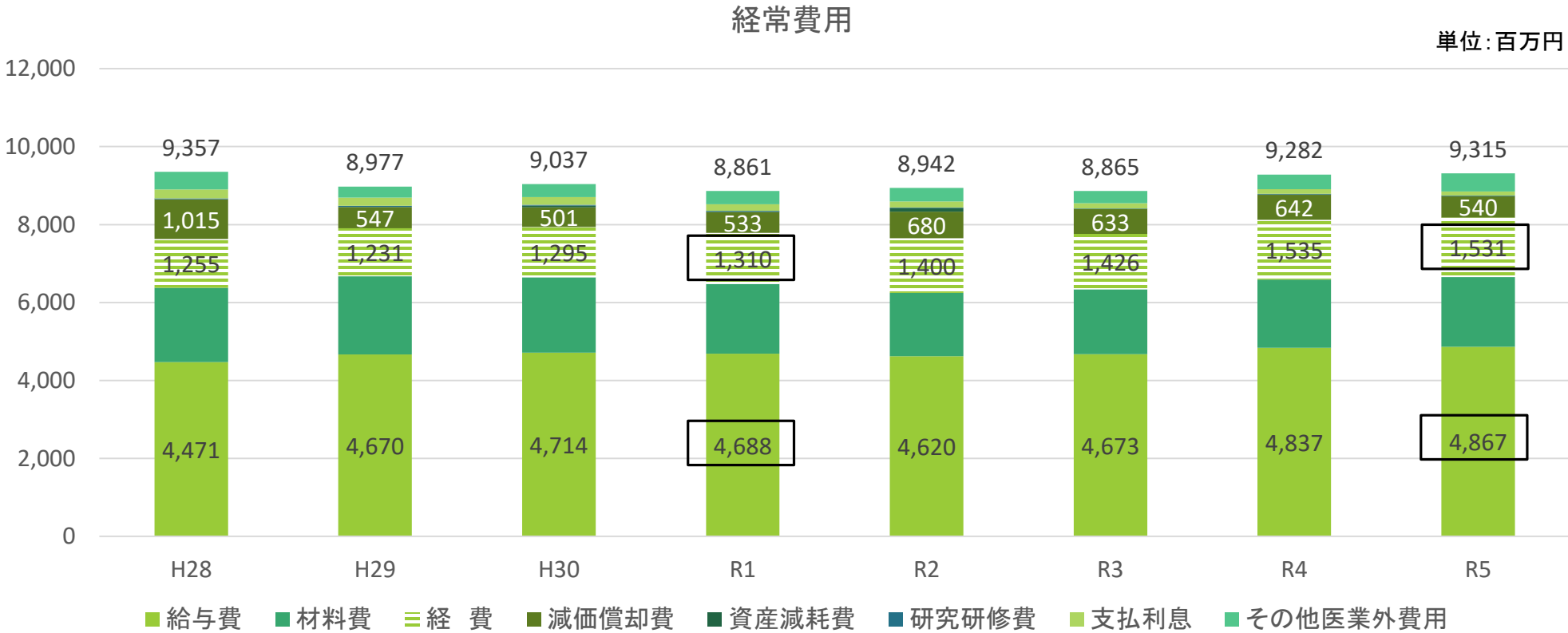
紹介率【R1】68.5%⇒【R5】78.8%（10.3ポイント増） 逆紹介率【R1】97.4%⇒【R5】106.6%（9.2ポイント増）

経常収益推移



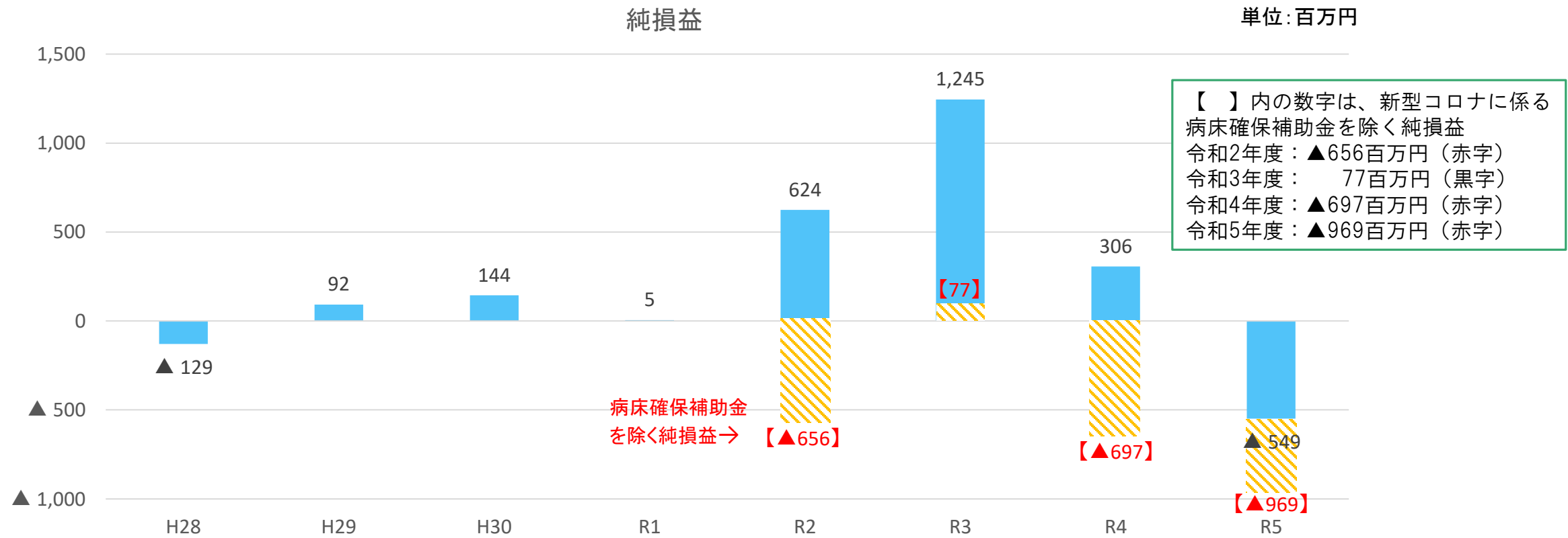
- コロナ禍による受療行動の変化や、一部の診療科での常勤医の減少に伴い入院できる診療科が減少し、医業収益は減少傾向
- 医業収益の差額 【R1】 7,944百万円－【R5】 7,357百万円＝587百万円（▲7%減）
⇒入院患者数は約22%減少しているが、患者一人当たり単価が増加し、医業収益は7%減少
- R2～R5は医業外収益に新型コロナに係る補助金が含まれている

経常費用推移



●電気ガス重油単価の上昇、各種委託料及び高額医療機器・システム保守費用の増加により、費用は増加傾向

純損益推移



●純損益は悪化傾向。患者数の減少に加え、物価上昇や賃金上昇により費用が増加している。

最近の主な経営改善等の取り組み

【病棟】

- ・ HCU増床
- ・ 病床の見直し（R4:▲28床、R6:22休床中）
- ・ 地域包括ケア病棟へ転換
- ・ 精神科個室増

【外来】

- ・ 外来受付の統合
- ・ スマホ通院支援アプリ導入
- ・ アイセンター設置

【医療の充実】

- ・ 高度医療機器の導入
- ・ 緩和ケア内科開設
- ・ 特定行為看護師、認定看護師の育成
- ・ 訪問看護の拡充
- ・ 訪問診療の検討（一部開始）

【管理費用削減】

- ・ 空調機改修による電気料削減
- ・ ヒートポンプチラーの導入

【DX・ICT関連】

- ・ Webサイトのスマホ対応
- ・ 働き方改革に資するICT導入
（勤怠管理・バイタルデータ自動転送システムの導入）
- ・ 患者向けwi-fi導入

【地域連携】

- ・ 紹介逆紹介の推進
- ・ 開業医訪問・地域連携懇話会の開催
- ・ ふれあい健康フェスティバルの実施

【その他】

- ・ 加算取得の推進
- ・ 産後ケアの実施

まとめ

これまで果たしてきた役割・実績

- ・充実した医療スタッフと高度な医療機器等による急性期医療
- ・多数の救急患者の受入れ（二次救急輪番当番病院）
- ・感染症及び結核病床の保有
- ・新型コロナウイルス感染症患者の積極的受入れ
- ・市内公的病院唯一の精神科病棟（精神科救急当番病院）の運営
- ・医療圏に一つの認知症疾患医療センターの設置
- ・ショートステイが可能な産後ケア

これまでの対応・取組

- ・高度医療機器の導入、更新
- ・地域包括ケア病棟への転換
- ・訪問看護の拡大
- ・患者数の動向に応じた病床の見直し
- ・無料wi-fiや通院支援アプリの導入などの利便性の向上
- ・精神科病棟での個室の増加（多床室からの転換）
- ・紹介・逆紹介を通じた地域医療機関との連携推進
- ・外来受付の再編、省エネ機器の導入などの経費縮減

市民病院が直面している課題

- ・コロナ過で減少した患者数が戻らない
- ・特定の診療科の医師や医療職職員の人員不足
- ・電気・燃料費などのエネルギー価格の高騰
- ・賃金上昇に伴う施設維持管理に係る各種委託料の増
- ・人件費の上昇
- ・現在の稼働病床数と病院規模との乖離
- ・救急医療体制及び政策的医療（感染症、精神）の維持
- ・医療機器の更新、保守費用の上昇
- ・施設老朽化による修繕の増加と大規模改修への対応

高岡市の医療体制が抱える課題

- ・受療行動の変化や人口減少に伴う患者数の減少
- ・生産年齢人口の減少に伴う人材不足
- ・高齢化の進展による高齢者医療への対応
- ・地域の病院間での急性期・回復期の病床数及び機能の最適化
- ・開業医の減少への対応
- ・在宅医療需要への対応

参考 地域交流事業等の状況

病院ボランティアの活動状況

団体名	人数	活動日	活動内容	活動開始年月日
すずらん	18人	月、火、水曜日	外来患者さんの案内及び誘導 診療申込書の代筆や診療受付の介添 院内保育ボランティア(毎月第2水曜)	平成4年9月7日
いろりの会	2人	木曜日	外来患者さんの案内及び誘導	平成12年5月8日
あじさいの会	2人	第4火曜日	衛生材料作り(ガーゼたたみ等)	平成12年8月
(一社)Ponteとやま	9人	木曜日	車椅子の清掃	令和4年6月

各種イベントの開催

○ふれあい健康フェスティバル

地域の皆さんの健康意識の向上を図るとともに、本院が地域住民から信頼され、地域の中で親しまれる病院となることを目的に開催。

	開催日	主な内容	ステージショー出演者	来場者数
第1回	令和元年11月10日	ステージショー、健康啓発展示・相談、健康チェック、ハンドクリーム・バスボム作り、バックヤード探検隊(手術室や放射線機器等)など	芸人:母心 地域団体:若葉保育園、小杉爆笑劇団	—(記録なし)
	令和2～3年度休止		コロナ禍により休止	
第2回	令和4年11月13日		講談師:神門久子氏、マジシャン:コンプレッサー	110人
第3回	令和5年11月12日		芸人:ものいい 津軽三味線芸人:中山孝志氏、安藤有希子氏	548人
第4回	令和6年11月10日		芸人:レギュラー、吉田サラダ氏 津軽三味線芸人:中山孝志氏、安藤有希子氏	620人

○最近の季節の催し等の実施状況

入院外来患者さんに対し心の癒しと季節感を感じてもらうもの

実施日	内容
令和5年12月1日～25日	クリスマス装飾(アトリウム)
令和6年7月30日～8月7日	七夕装飾(アトリウム)
令和6年8月7日	七夕のつどい ハーモニカコンサート
令和6年12月3日～	クリスマス装飾(アトリウム)